

日赤だ！印象派

ビル・オブ・ヒューマン





ヤフーブログからセレクト転載、スナップ印象派、ツイッターノベル、おもしろ印象派などジャンルいろいろ、オリジナル写真も多数掲載して、よみやすいe-hon（閲覧無料）です。ダウンロードもOK！URLからアクセスしてぜひ。

Puboo ブログ e-hon 『ひょうたん鯨』（13Titleから増殖中〜♪♪）

<http://p.booklog.jp/users/axros03>

：

下記は閲覧ページの一部です、ダウンロードしてお暇なときにお読みください。

≒140字物語 ひょうたん鯨

<http://p.booklog.jp/book/118396/read>

ひょうたん鯨：1

<http://p.booklog.jp/book/19047/read>

ひょうたん鯨：2

<http://p.booklog.jp/book/34561/read>

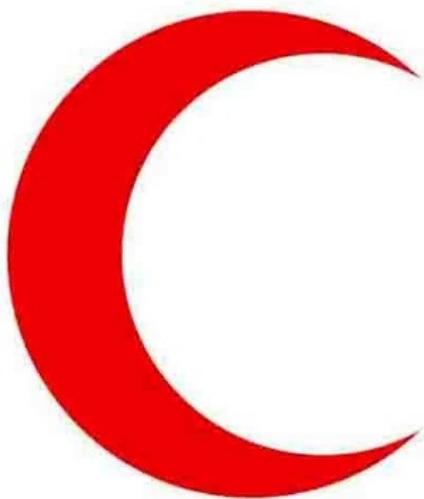
おもしろ印象派

デジ撮！オリジナル「新・おもしろ画像」と「印象記」ア・ラ・カルト。珈琲タイムに、見て読んでニュートラルなひとときを、ぜひ！

<http://p.booklog.jp/book/19408/read>

スナップ印象派：1

<http://p.booklog.jp/book/61780/read>



それは謂われのない因果。何世紀もあとになって、

キリスト十字軍に迷惑を被（こうむ）ることになった赤十字社。

聖地エルサレム辺りでは、その暴虐さから忌み嫌われている十字ゆえに、

本来のマーク『赤十字』を『赤い三日月（新月）』に変えざるを得なくなった。

かつての大航海時代から、

ゴスペル（宗教）・ゴールド（富）・グローリー（榮譽）の3Gを旗印にして

世界へ進出したキリスト教、強欲な性格は当時から引き継がれた血脈なのか。

そんな事を考えるともなく、今夜も消灯の時間がやってきた。

・・・なんてね。

さらには『赤い十字とキリスト十字』に



照明やフィルターワークにより同じ被写体でも、

暖色がかった写真と寒色がかった写真に撮り分けることができる。

その2枚の写真、

どちらが好みですかといろいろな人にジャッジして貰ったところ、

若い人は寒色系、ミドル以上は暖色系を選んだ。

年齢によって気持ちに響く色、安らぐ色が異なるということが分かった。

こういった被写体の場合だと、日没前と日の出前で色調が分けられる。



江戸時代の交通手段は足、ひたすら徒歩であった。

当時の主要街道は、東海道、中山道、日光道、奥州道、甲州道の五街道。

旅行者は明け方に出発して日暮れには旅籠へ投宿した。

道中、稲わらで編んだ草鞋(わらじ)を何足も履きつぶすことに。

履きつぶされた草鞋はまとめて肥料にされたというから、

リサイクルが徹底されていた時代である。

街道は整備こそされていたが、足もとは土埃にまみれる。

そこで宿へ着くとまず、女中がタライを持ってきて足を濯(すす)いでくれる。

病院への投宿中(入院)ナースが、一度だけ足を濯いでくれたことがあり、

その際にこの話をしたのだがまるで通じない。

そう言えば近頃の時代劇でそんなシーンをついぞ見かけない。

足すぎは、

旅人たちの安堵感を表現するのに欠かせないのではと考えるのだが。

.

Photoはテレビ時代劇『剣客商売』の1シーン。

さすが池波正太郎作品、ディテールまでこだわっている。

尿取りパットを
便器内に落とした方は
看護師に
お知らせ下さい

最早不可ない、数日をなんなんとしている。

詰まり始めたそれは、下腹部で徐々に嵩(かさ)を増している。

今や喉元に至る程の鈍重感がある。

尿が出なくなるのは腎不全、すると差し詰めこれは腸不全か、

いやそれとも単なる糞(ふん)詰まりか。

日課のウォーキングを終えてダイルールのソファに腰を落としている時、

「それっ今だよ！」とばかり、便意が天の啓示宜しく私に号令する。

摺り足でウォシュレットへ急ぐ様(さま)は、

言葉にすれば「サッサササ」といった擬音(オノマトペ)が適当だから、

ゴキブリの小走りの如くでもある。

大いなる期待を持って座する。南無。

挨拶がわりに少し力を入れると、出口界限から応答がある。

さらに力を入れると、おお何という鳥肌立つ感動。

ニユルルモリリと水洗に垂れ落ちだしたではないか、さらに。

今や私の人生の力点は肛門括約筋に集中している。

しばらくの後(のち)、煉獄から解き放たれた私はダイルールのソファにいて、

ヘッドホン越しにカントリーソングを聴いていた。

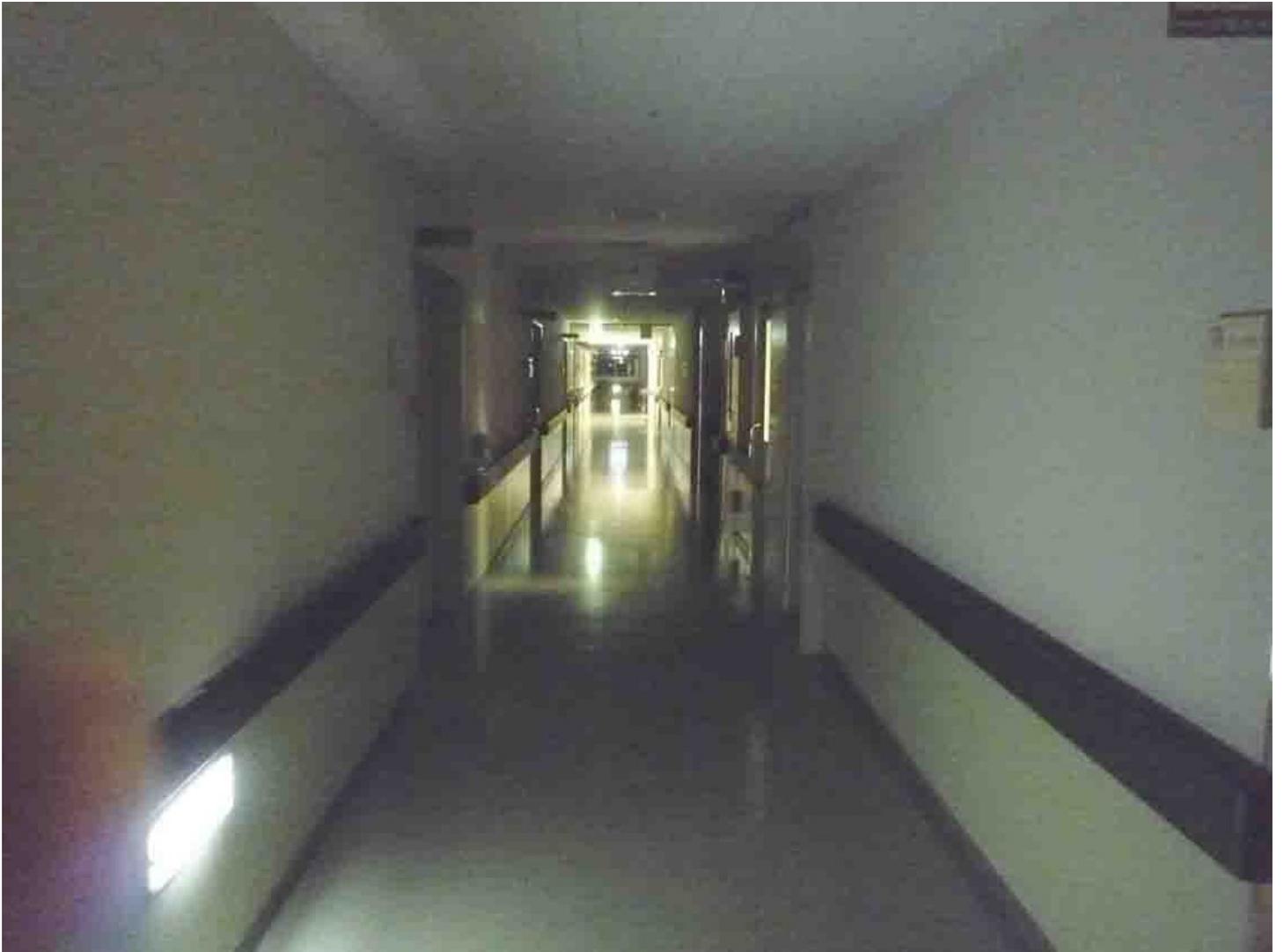
・

Photo 快便の視界



使用済みの「脳みそ」を廃棄するのか、専用容器。

病院トイレに4~5箱置かれてあった。



真夜中の廊下。どこの病院とも同じく、地階には霊安室があるという。

これだけの施設規模だと、

あの世へ逝ききれない霊が彷徨（さまよ）っているかも知れない、

なんてことは入院中一度も感じたことがない。

この棟内にはおおよそ影の部分がない、死角がない。

どの立ち位置からも見晴らしが良い。

悪戯しようとする霊が隠れている物陰もないのである。

かくしてきょうも、ゆるゆるかつ深々(しんしん)と夜が更けていく。

・・・あ、いま動いたのなんだ！？



キングダム・オブ・ヘブン

リドリー・スコット監督のスペクタクル映画

『キングダム・オブ・ヘブン Kingdom of Heaven』（2005）。

第1回十字軍とトルコ軍との、聖地エルサレム攻防を描いた映画だが、

その中で十字軍に対して懐疑的な表現があったので調べてみることに。

：

十字軍による侵略

1096年、異教徒トルコから聖地エルサレムを取り戻すべく、

十字軍（キリスト教圏の諸侯からなる大規模な連合軍）の遠征が実現される。

十字軍の一部はユダヤ人に迫害を加え、何千人もの死者と無数の難民を出す。

さらに1099年、エルサレムを攻略してエルサレム王国を設立するが、

この時、十字軍兵士たちは殺戮と掠奪をほしいままにして、

老若男女を問わず住民約7万人を虐殺したという。

ローマ法皇は十字軍を利用して権力の拡大を図っていたと考えられている。

約200年に亘って

7回の遠征を行うが、これといった成果もなく失敗に終わる。

十字軍の失敗によりローマ法皇の権威は失墜し、

後にユダヤ人や東方キリスト教会に禍根を残すことになる。

:

[三者三様の聖地エルサレム](#)

聖地エルサレムは、十字架で磔にされたイエス・キリストが

3日後に甦ったとされるキリスト教徒の聖地。

また紀元前1000年ごろ、

ユダヤ人の王ダビデが聖所を置いていたためユダヤ教徒にとっても聖地。

一方イスラム教徒にとっても、イスラム教の開祖ムハンマドが

6世紀に天使に導かれて礼拝を行った聖地とされている。

エルサレムはキリスト教、ユダヤ教、イスラム教の、

3つの宗教の信者たちの巡礼の地とされる聖地である。

:

[赤十字もしくは新月](#)

アンリ・デュナンの提唱により創立された赤十字社。

その識別マークは多くの国で、

デュナンの母国であるスイスの国旗の色を反転した、

白地に赤い十字『赤十字 Red Cross』を採用している。

しかしイスラム教諸国では

「十字はキリスト教を意味し、十字軍を連想する」と忌避されているため、

白地に赤色の新月を識別マークにして

『赤新月社 Red Crescent』（せきしんげつしゃ）と呼ぶ。

十字軍遠征の時代から800年経った現在も、

イスラム圏で『十字』は略奪のシンボルとして忌み嫌われている。

十字軍と何の関わりもない赤十字社こそいい迷惑、といえる。

：

余談だが、2003年の対イラク戦争を、

ブッシュ大統領は『聖戦』と呼び、米軍を『十字軍』と表現した。

しかしイスラム圏からの猛烈な反発を受けてく

すぐさま撤回する羽目になった。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



眠いのだが、どうにも眠られない。

そんな時は、ままよ！ならそれでいいじゃないかと、

ただ無為に横になっていることにしている。

こんな時に限って眠りに陥る寸前、

その淵から引き戻そうとするチカラを感じる。

これは、眠り（彼岸）と覚醒（此岸）の間には三途の川が流れている、

だから「そっちへ渡ってはいけない！」と警告する念である。

また、はからずも渡りそうになった時に注意を喚起するシグナルの一つに、

欠伸（あくび）がある。

この現象は人類発祥の時からDNAに引き継がれている、という。

ずいぶんと長い間、私はこれを信じて疑っていないのだが、どうだろう。

・
そしてまた今夜も・・・。



すべて同じつくりの部屋。案内プレートは頭上にあり、お年寄りには見づらい。

弱者に冷たいのか頓着していないのか、おそらく患者の立場を理解していない。

かくして。

病室前で部屋をのぞき込みながら、か弱そうなお婆ちゃんの声。

「ワタシどこかな、この部屋かな。あら、隣の(ベッドの)奥さんが居てない」

そこへ通りがかったパジャマ姿のおばさん、お婆ちゃんに

「奥さんあっちの方から来てたよ今。何号室なの？」

「・・・??」

「迷ったんやな、部屋全部いっしょやけんな」と、行き先案内をしている。

せめて部屋番号を見やすくしたら、お年寄りにも優しい表示になるのでは。

もうひとつ欲を言えば“部屋ごとに動物や花のピクト”を入れたらどうよ？



現在の理想的食事は一日1300キロカロリー、塩分摂取6gであるという。

どんな計算でそうなるのか、これでは何もせずにじっとしているっきゃない。

何かすると腹が減る、汗もかけない。

でこの写真、どこかのセルフうどん店のかけ(小)なのだが、

栄養士によると、麺とダシで何と！塩分が7gもあると言う。

店により季節により多少変動するのだが、おおむね合っているそうだ。

とするとこの一杯で私の、一日の塩分摂取量を軽くオーバーすることになる。

いやはや、うどんは塩と小麦と水で出来ているとは、よくいったもの。

で、私にどうしろって。



1日3食1300kcal

これは入院食。1日3食1300キロカロリー、ご飯特小！である。

ナースの、「全部食べましたか？」の返答はいつも、「お代わりください」。

身長に何やらかにやら、引いたり掛けたりしながら

導き出したカロリーがこれなのだが、

あまりの食べたりなさに気力も萎えるのである。



腕輪に端末センサーを照らして、ピッピ！

「スーパーの特売レジみたいやね」と言うとナース、

「そうですかぁ」と愛想がない。

これは入院時に装着される「人間バーコード」である。

同時に必ずフルネームを問われるので、

いささかの手違いも起こらない筈である。

採血、検査など、退院まで徹頭徹尾このチェックがなされた。いやさすが。



本日も3食昼寝ナース付き。

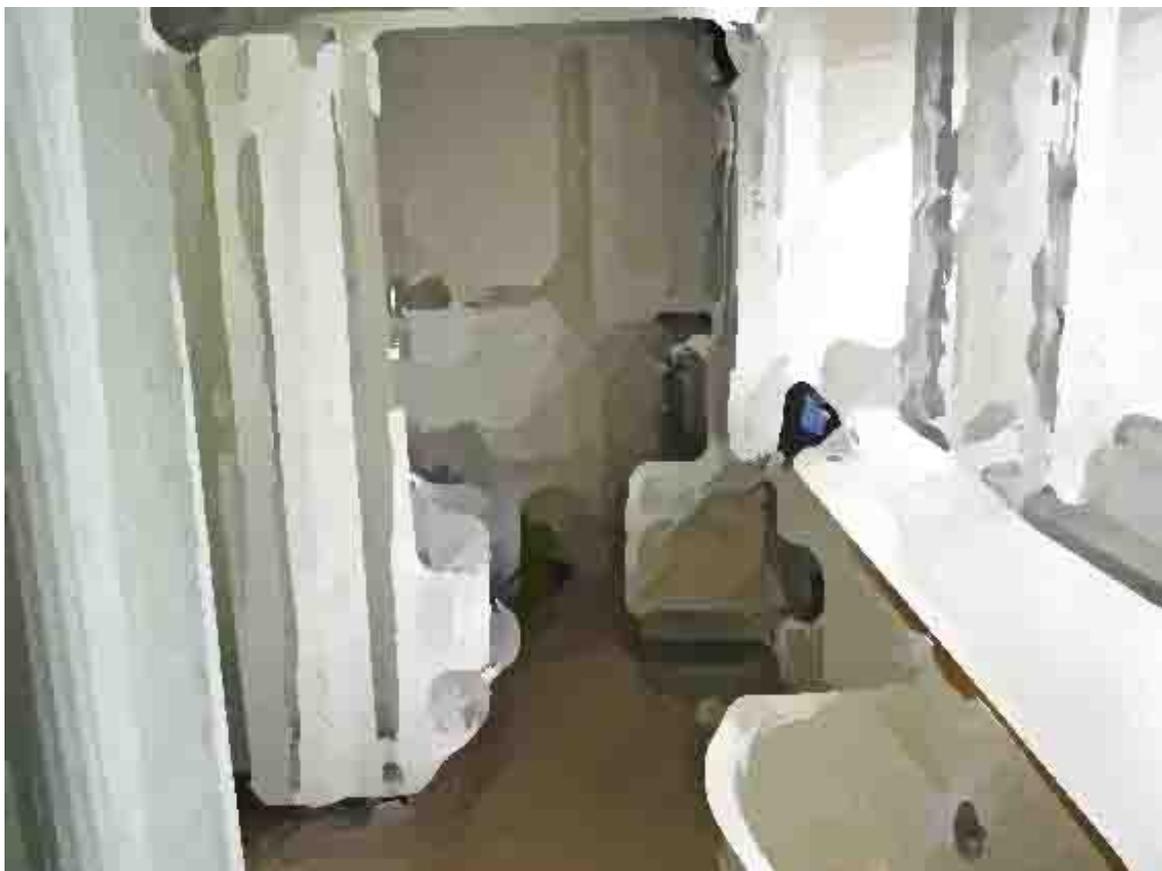
予定の検査スケジュールを済ますと、することもなく院内をうろうろ。

そうこうするうちに昼ご飯、お腹がこなれるとお風呂へ。

明るいさなかのバスタイムを楽しんだあとは大相撲。

で、明日も。

何とも贅沢な時間の過ごし方であることか。



窓辺のベッド、白内障のオペ待ちの患者とその連れ合い、80歳過ぎ。
田舎育ちのおいらには、畑の様子が目に浮かぶ。

o^^o) とうもろこしの花がようけ咲いとるわ、おとうさん。
それがちょいちょい(実を)付けとる。
帰ったら楽しみがようけあるわ。

°∩°) ...。

次の日の会話。

o^^o) きょうもようけオクラが生(な)とったわ。
毎日採っても追っつかんぐらいや。
一日遅れたら大っきになってごじゃやよ。

°∩°) ...。(聞き取れない)

どうやらおとうさんは無口な性格のようだ。

カミさん同士で話したところ、

昔は20貫(1貫=3.75kg)以上の巨漢だったそうだが、

今は痩せて見る影もない。糖尿病で血糖値が580(通常の10倍)あると聞いた。



3万日を越えたら大往生ですよ。

3万日生きるとおおよそ82.2歳になる。まず長生きじゃないですか。

老患者の自分に言い聞かせるような言葉が二度三度、病室に漏れ響く。

ちなみにこの方、昭和2年生まれとか。



病室のペイドテレビでチャンネルNECOを観た。ケーブル放送である。

コンテンツは大方が昔の映画やテレビドラマ。

今年は裕次郎23回忌にあたり、特集が組まれていた。

折しも観ていたチャンネルNECOで、52歳で老化が止まっている彼と、

86歳の現在も老化が進んでいる三國連太郎が競演した映画が始まった。

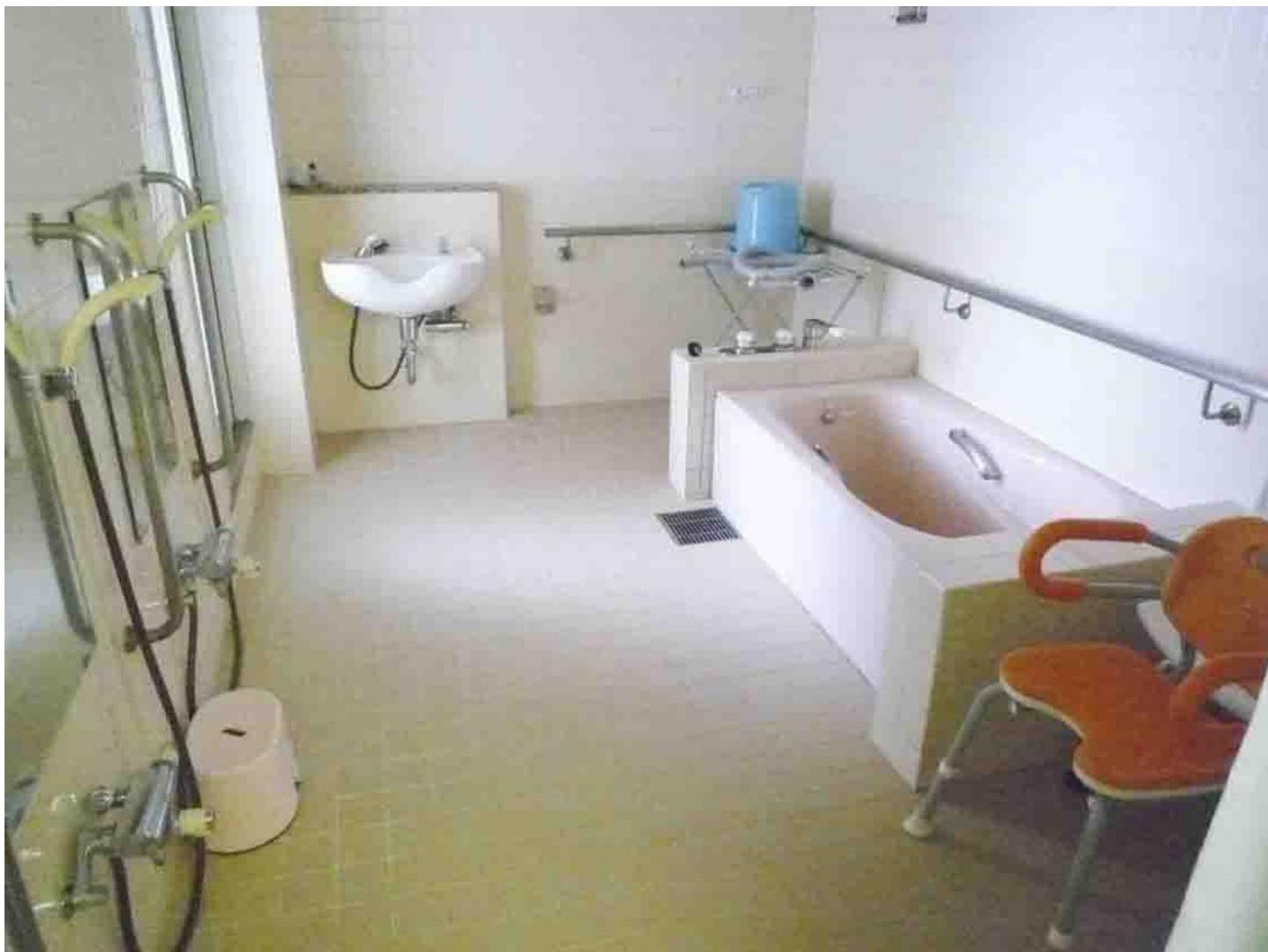
映画の題名もその時何歳だったのかも不明なのが、

ほぼ10歳違いの二人、なかなか見応えのある役柄を演じていた。

生きていれば75歳になる裕次郎、

『黒部の太陽』『太平洋ひとりぼっち』などのタイトルの他、

あと数本の名作を遺したであろう。



陽の光に揺らめく湯舟。

風呂上がり、涼んだあとはワイドショー、大相撲、ケーブル映画、

気が向くと昼寝。

このあと暫くすると晩ご飯が運ばれてくるということもあり、

日中のバスタイムは何とも悠々、呑気であることか。

入院棟は階ごとに一人用と介護用の2室のバスが設備されている。



其の一

ナースは患者に優しくなければならない。何故なら患者は弱者である。
しかしごくたまに例外もある。

其の二

ナースは保育園児を諭すように患者に接しなければならない。
何故なら時として患者は子供遣りする時があるから。
しかしつけあがるので、甘やかしてはならない。

其の三

院内においてナースは、医師に次ぐ絶対的存在である。
であるから聞き分けのない患者に限り、
注射の二度打ち程度の懲罰を与えても許される。(嘘)

其の四

ナースは笑顔で患者の世話をしなければならない。
何故なら笑顔は何ものにも代え難い妙薬であるから。
これには例外がない。

写真家・荒木経惟(のぶよし)氏インタビュー

・ ・ ・ どんな薬より、どんな手術よりも、
看護師さんの笑顔が一番いいねえ、天使だよ！



全館エアコン、特に部屋は冷房が効き渡っている。

真夏であるにもかかわらず（夏場は水冷だから温度調節ができない）

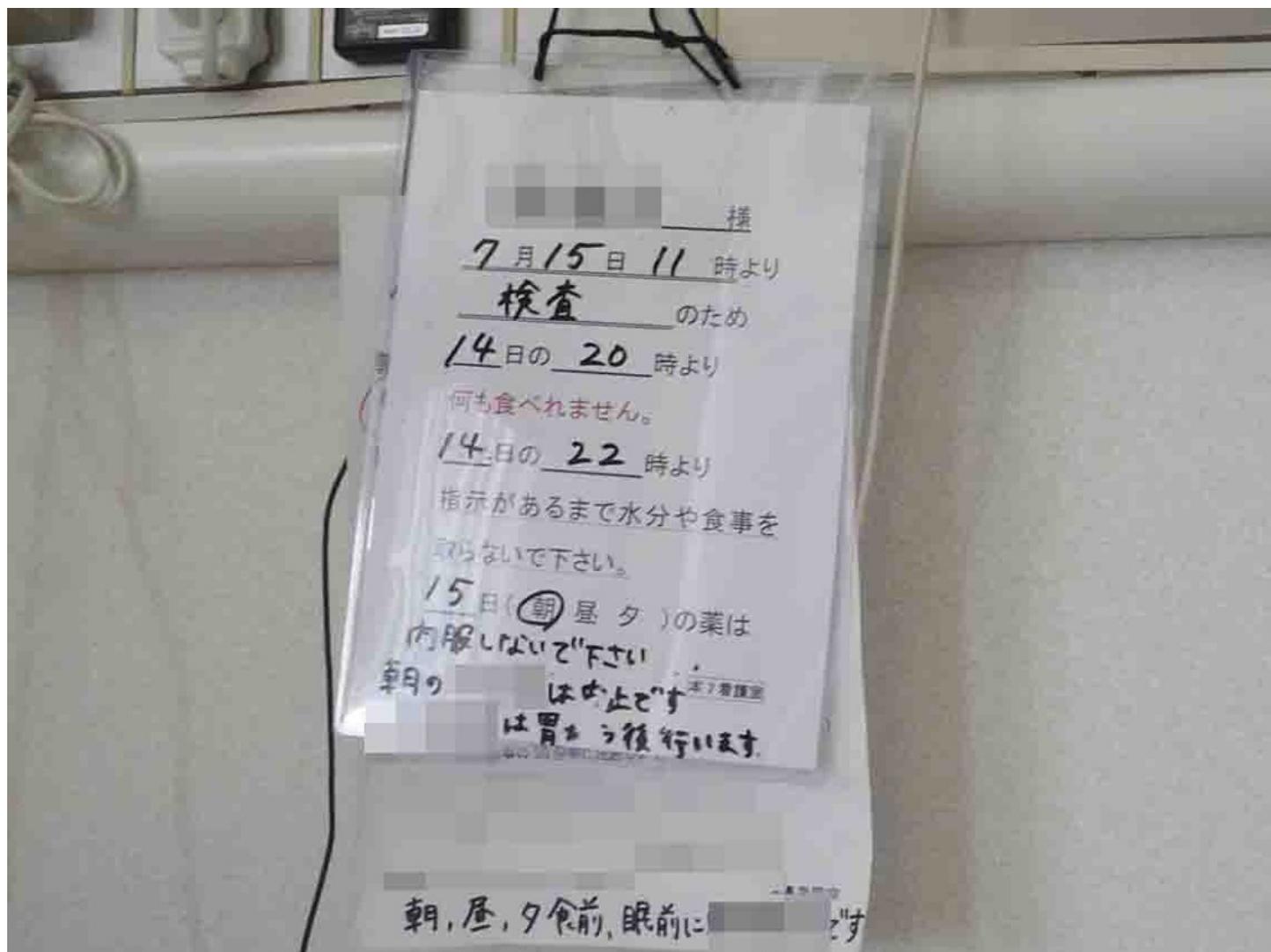
夜は蒲団が手放せない程である。

毎日陽が昇って落ちて確実に時間が過ぎているのに、曜日の感覚すらない。

入院4日目で呆け果てたかという夜、

食事に添えられたメッセージカードに、あそっか、今日は七夕なのかと気づく。

ご飯(特小)、三杯酢、冷やし鉢、焼き茄子、夜食、だし割りポン酢



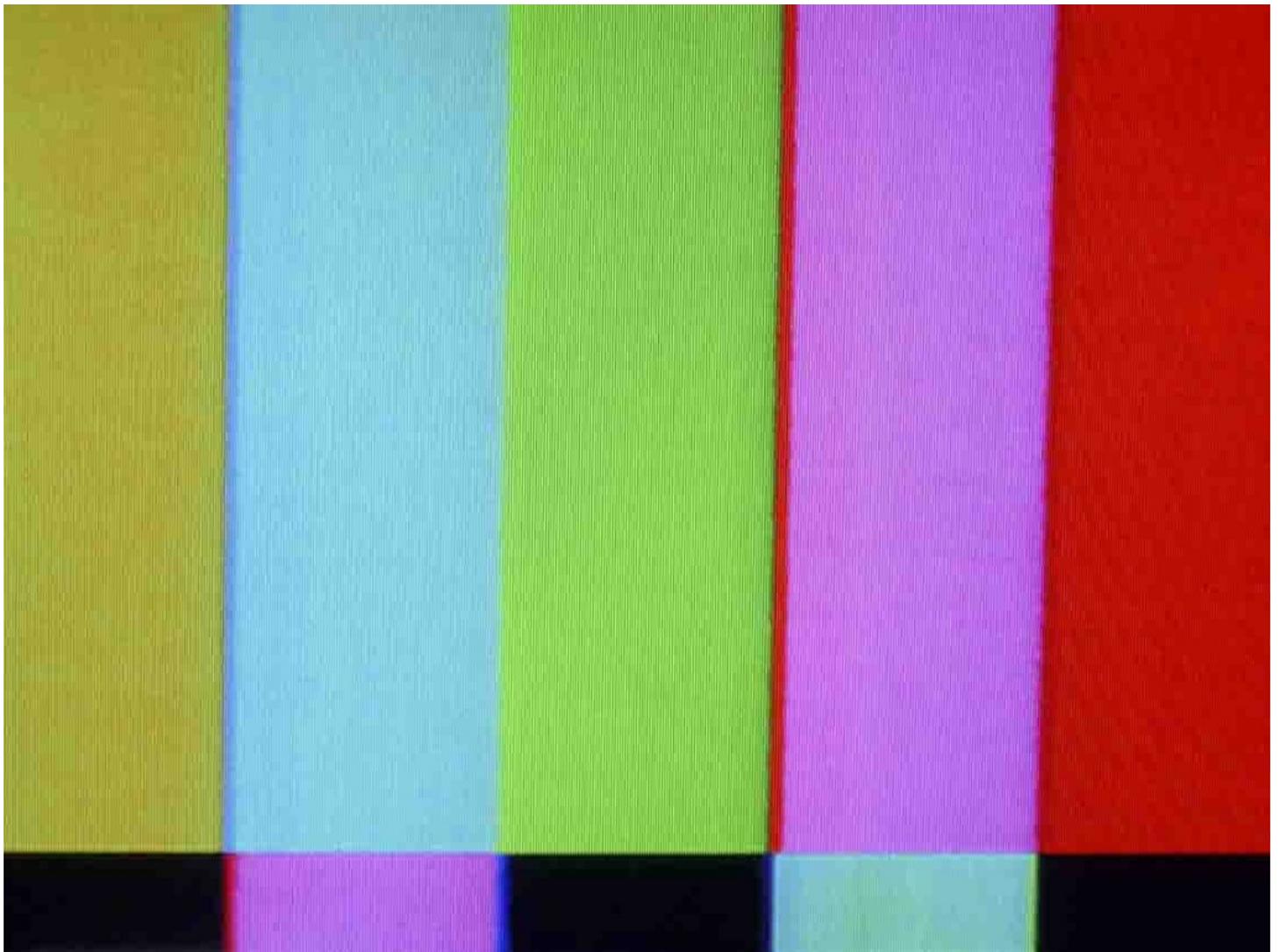
どうせ悪食で胃壁が荒れているであろうと想像していたのか、

胃カメラのモニターを眺めながらドクター、

「思っていたよりキレイですね」とは。

「胃も診ておきますか」で始まったほんの数分の検査。

前夜から翌午後まで絶食である。随分と遅い昼ご飯でした。



明け方に目が覚める。

一体何時だとテレビを点けるが、まだ番組も始まっていない。

朝告げ鶏も鳴かない時刻のようだ。朝ご飯にはまだまだ程遠い。

とりあえずシーツを引き寄せて眠るふりでもしていようか。

...とふと意識が途切れていたのか、辺りはすっかりと朝のざわつき、

ナースを呼ぶ院内コール、廊下を歩くスリッパの音。

さてと、顔洗って「朝ズバ」でも観ますか、それとも。

尿瓶 (しびん)



これだけ並ぶと少し壮観。尿瓶のラインナップである。

一日の尿を溜めて計る。量だけかと思っていたら成分も計る。

いずれも腎機能が如何ほどかを知るためなのだが、

これは男女問わず同じ方法である。

しかしこれだけあると、夜中、尿瓶の主を間違えそうだが、どうだろう。



朝7時、1階売店が開く時間を待って、

日刊紙や飲料水などを買うため院内の患者たちが動き始める。

なにしろ、一日中検査されている訳じゃなく、

あらかたの人が暇を持てあましている。

かといって同室の人と、いきなり親しく歓談も出来ず、またしたくもなく。

いきおいテレビや新聞、週刊誌を眺めることと相成る。

それも飽きれば昼寝である。

そうこうしているそのうちに、今後の詳細が決まってくる。

早い話、「俎上の魚(うお)」が

「紅海(こうかい)に移る」べく、程よい緊張感のなかで退屈しているのである。



太宰治の短編小説「竹青（ちくせい）」を朗読CDで聴いた。

大概の言葉は聴いただけで、

その漢字が目浮かぶとタカをくくっていたのだが、間違いであった。

殊にこの短編、昔の中国を舞台にしている。

論語やらなにやら、聴くだけでは到底理解できないフレーズが、

これでもかと語られる。

主人公からして「ぎょよう」(魚容)という名前である。

その他、しゃくらん(灼爛)、ばんだのはな(万朶の花)、

ごおうびょう(呉王廟)などなど、

皆目、goo辞書漢字にリンクしない。

Yahoo!検索すると原作がルビ付きで全文に亘って公開されていたので、

聴いて読んで、言葉の容姿がようやく理解できたという訳だ。

ちなみに「竹青」は魚容の妻になるカラスの名前、「啞々（ああ）」と鳴く。

蛇足だが小説で読むと、おれのことを「乃公」と表記していた。

当節日本では、さしずめ「乃公乃公詐欺」とでも書き換えられようか。

Photoは高松日赤屋上から撮った2羽のカラス、多分夫婦だろうね。



お泊まりルーム(病室ともいう)の向かいにこの棟はある。

天気のいい日にはこの屋上で、ナースを先頭にウォーキングする一行。

入院患者のための健康教室だというのだが、

元気なのは先頭のナースだけで、

追従する彼らはおおよそ足取りが重そうである。

その様子をベッドに腰掛けて見るともなく眺めていると、

映画『ポセイドンアドベンチャー』（1972）で、

脱出口を求めて彷徨(さまよ)う集団を思い出して仕舞った。

足取りもおぼつかない彼らの行き先は死の底だったりするのだが。

どうもここはウォーキングコースになっているようだな、

あす午後にも歩いてみるか。

ぶっかけにぶったまげ！



入院食は栄養士によりきちんとプログラムされている、という。

今度の、一日1600kcal、塩分10gってどんなのよ、

なんて考えるよりカラダで理解するっきゃない。

この昼配膳を一瞥(いちべつ)して、大盛りご飯と汁やなと思いきや(ワタシ近視)、

目を凝らしてよくよく見ると何じゃこれ！一瞬絶句、

でもってしどろもどろになって仕舞った。

おお！ランチに、う、うどんやないか、何やてかうどんってか！うどんとは！

うどんかいな！へえ、うどんですか、病院やのに！

「かけうどん」で塩分7gって教わったばかりやのに、じゃなかったの。

真逆(まさか)こんなところでうどんが食べられるとは、

いや食べさせられるとは。

この時ワタシは、垂幕(すいばく)のなかでうどんという言葉が5度ほど発したか。

でさて、ついでに物申せば、

「ぶっかけうどん」は何で大根おろしを付け合わせるのか、

以前から釈然としないている。戦中・戦後の食べ物みたいじゃないか。

何はなくとも原材料の小麦と大根だけはあったからな。

まそれは兎も角、副菜は千草焼き(厚焼き卵)とナムル(野菜サラダ)だ。

妻(さい)、その様子を見ていて、

(o^^o) 減塩うどんやな。

(°▽°) へ、そんなものあるんかいな。

(o^^o) さあ知らんで。

TVのルポ番組を観ていると、拘置所の弁当(監弁)は一日2250kcalだって。
いいもの食ってるんだね。

ごかい、だ。



恋人に外泊を咎められている男、エレベーターで・・・

誤解だよ、誤解。残業で遅くなって駅へ急いでいたら、

丁度会っちゃって彼女に。

一緒に駅まで歩いていた時だよ、突然彼女が腹が痛いって言い出して。

訊けばランチが妙だったって言うんだよ。

いや、駅まで近道してたからさ、まわりはホテル街だし、駅まで遠いし。

困っちゃって入ったんだ。トイレ待ちしている間、

つい仕事疲れで眠ってしまったんだそのままソファで、起きたら朝だよ。

彼女は腹痛も治まったというので、ぼくが眠っている間に先に帰ったみたい。

で朝はそこから出社したって訳なんだ。

本当だよ、八百万(やおよろず)の神に誓って。

その時エレベーターが止まって扉が開いた。(決別のゴングみたいに)チーン！
それまで黙っていた恋人

よくもまあ誤解だなんて。あら5階だわね、降りなくっちゃ。

じゃこれで金輪際左様ならね！

・
日赤本館エレベーターでふと思いつかんだ、男女の“ごかい”会話。



同床異夢の一「おい、おっさん！」

鼻孔からカテーテル(管)を通してポリープ除去手術をした、向かいのベッドの男。

術後、鼻孔に詰め物をされて2日間。ようやくそれが外れた今日、

ナースに野太い声で、

「おお、鼻の通りがよくなって、ようやく今夜から眠れるわ」

「眠ってって時々、口で息するの忘れるんや」

「息が止まって死ぬかと思たでえ」

いやあ、おのれから口を閉ざして死んだ人なんか、いませんって、ほんま。

かくしてその夜、途切れのない大いびき。眠れんやないか、おっさん！

たまりかねて垂幕(すいばく)越しにベッドの脚を蹴り上げると、

やがて静寂が。

同床異夢の二「放屁三重奏」

お遍路だと同行二人なのだが、ここは同室四人である。

一人は徘徊の恐れありで、夜はナステ*処置室へ。

本日も誰とはなく屁をこき始めると、他からも次々と放たれる。

言いだしっぺならぬ誘いっぺである。

ここは病院、我慢は決して美德ではないのである。

*ナースステーション



「温かいものは温かいままに、運びの間合いも絶妙である」と書くと

一流料亭の広告コピーになるのだが・・・いやこれはJOKEだけど。

朝・昼・晩の食事は、地階セントラルキッチンで調理されて、

熱いものは熱く、冷えたものは冷えたままの状態で運ばれてくる。

その理由は、中でヒーター部分が分けられた『配膳カート』にあった。

「端から端まで一人で引っ張るの、重いよ」と、配膳のおばちゃん。

こんなに熱いご飯とおかずを毎日三度食べられるのも、

おばちゃんたちのお陰だね、と感謝する次第で・・・。



12月24日クリスマスイブ in 高松日赤(1階アトリウム)

「聖この夜」の合唱に合わせてステージ左右&後方から、

ナース聖歌隊が粛々(しゅくしゅく)と進む。

訊けば全員1年生ナースというから初々しい。その総勢かなりの人数である。

ベッドで寝ていて見られない人たちのために、

このあと各入院フロアへナース聖歌隊たちが出かけていく。

イベントは、ナースたちによる本格的フラメンコショー、

馴染みのドクターのマジックタイムなどと続く。

今年で14回目になるというから、かなり頑張っているんだね。

私も点眼タイムをさておいて最前列辺りへ陣取ったのだが、

実に気持ちが温まる体験をしました。

ちなみに夕食のデザートはショートケーキ代わりのイチゴ。

チキンは残念ながら・・・。

鳥になる。



人は、なぜ高い所を目指すのかと問われると、

そこにてっぺんがあるから、眺めがいいからなどと答えるのだが、

なぜなぜと立て続けに問われると答えに窮することに相成る。

空の高みから下界を見下ろすことを鳥瞰（ちょうかん）という。

鳥の視点で眺めるということだ。

すると人は鳥にでもなりたいのだろうか。これちょっと詭弁っぽい。

これは「山登り問答」に似ているか。写真はビル最上階から眺める高松市街。

遠く瀬戸内海が横たわっているのだが、大河のようにも見える。

台風など強風一過、海も空も澄明な碧（あお）色に染まる。

Photo : 高松日赤10階

逆さウォッチ



ナース専用脈拍ウォッチ。

こういった類(たぐい)のものは支給品だと思っていたが、違っていた。

まず、キティちゃんなので、そうじゃないとわかるのだが。

通販で買ったんですよ、と屈託なく笑うナース。

このウォッチ、聞けばちょっとした工夫がある。

胸ポケットに吊って計るときに丁度いいように、逆さに向いている。

脈を取られていて成る程と得心。

また、キティちゃんのナースキャラも可愛くていいじゃない。

・

どうでもいいけど、これ私の手。後ろは妻(さい)とナース。



簡潔なフォルム

パトカーの後部座席に誘い込まれた時の気分似ている。

そこにはノブがなく、自分でドアを開けることが出来ない。

この夜は、いつもの手洗い場でなく部屋前の手洗いで歯を磨こうとした。

ケースから歯ブラシを出してきて、蛇口がないことに気づく。

一瞬脳内は、茫漠とした不安と真実を見極める理性がないまぜになっている。

うん、ここは病院である、何があっても可笑しくないと考えれば、

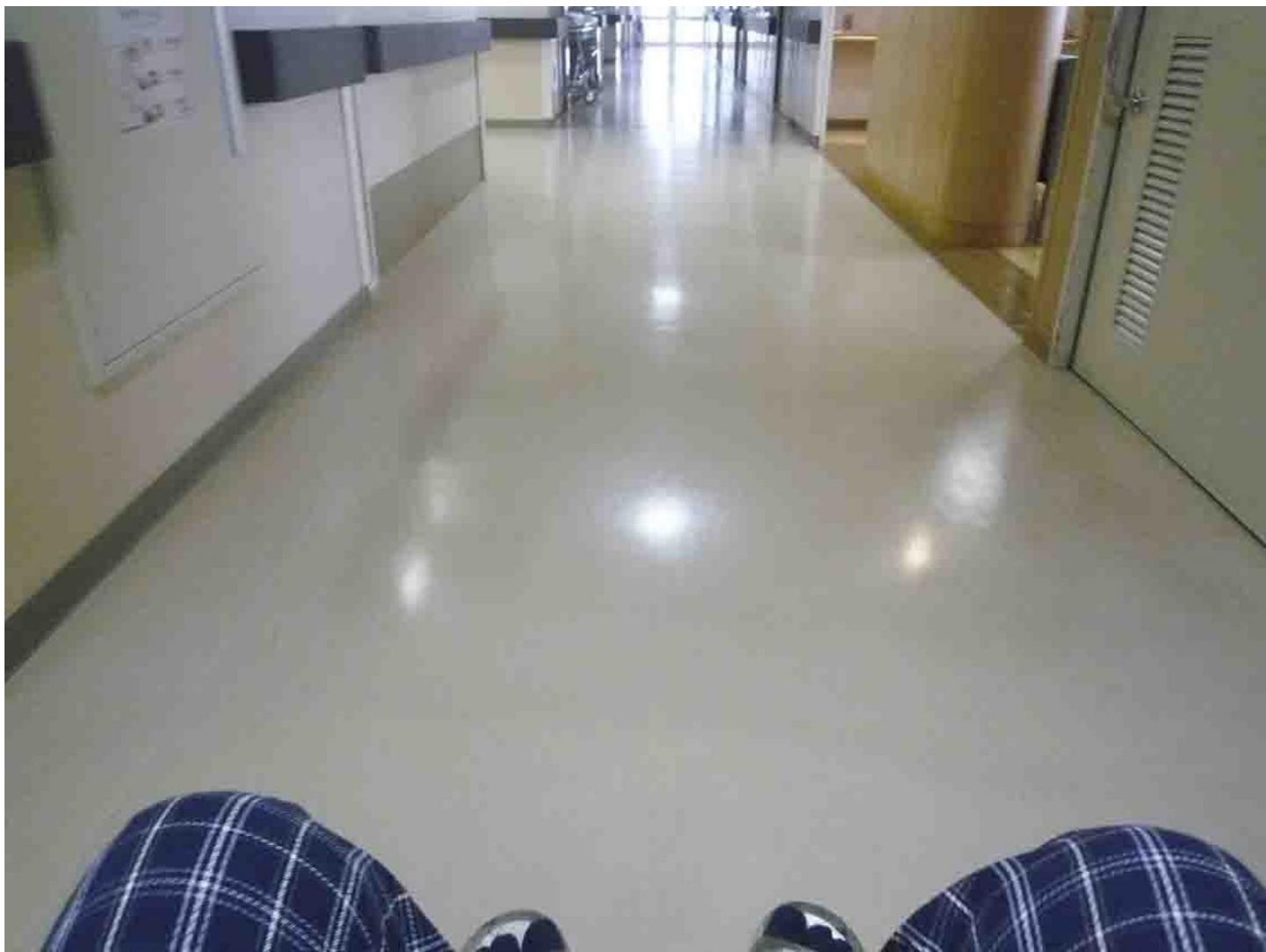
早々ペダル式であることに気づく。

しかしこの簡潔なフォルム、

蛇に似ている。差し詰めペダルが尾っぽのようである。

何でこんな手洗いが、の疑問に答えたナース、

汚れた手で蛇口を捻る、手を洗ってまた捻る。元の木阿弥でしょ、と。



所謂(いわゆる)車椅子、ここでは補助椅子と呼ぶようだ。

さて、子ども目線ならぬ補助椅子目線。座り位置での目線である。

ここでは日常の光景だが、

すれ違う人たちが、何だろうといった表情を見せているような気が何となく。

その人の目線に立ってみると、その人の気持ちが分かるというのだが、

ま、そんなものだねと呟きながら、私はいったい何処へ行く。



キャッツアイ

オペ室。あの光る扉の向こうへ行くと行かないに関わらず、

人間はそのうち命が尽きるのだが、そんな話はさておき。

ここは外科医の主戦場であり、治療の大舞台である。

ナースもオペ室の正確な数を知らないほど、

限られた人たちしか足を踏み入れることはない。

さて、全身麻酔でなく局所麻酔によるオペの場合、

よくしゃべるドクターとクランケだと掛け合い漫才のようなになるので、

時々痛いのが玉に瑕(きず)だが愉快だ、ということもある。

また、オペを補助するナースを、その名の通りオペナースと呼ぶ。

白衣とマスクを着用しているので、露出しているのは目もとだけ。

この時の彼女の双眸(そうぼう)が、キャッツアイそのもので印象的だった、

という話をするためにこの光る扉はある。

で冒頭へ戻る。



暁の大捜索

視界が朦朧（もうろう）と揺らいている。足取りがおぼつかない。

小径（こみち）をはさんで垂幕（すいばく）が幾つも立ち並んでいる。

うろ覚えの知識が私を、

北阿（北アフリカ）の街区を彷徨（さまよ）っているように思わせた。

どれ程時間が経ったのだろうか、私は意識をなくしていたようだ。

目を開けて周りを見渡す。

垂幕だと思っていたのだが天蓋（てんがい）がない、

身近は片付けられて何も無い、

様子が違う。そうだ、迷った挙げ句私はここで眠ってしまったのだ。

私の病室ではない、どこかの空きベッドのようだ。

起きあがり廊下へ出ると、3～4人の男たちが私を見つけて騒ぎ始めた。

「\$≡℃%&」「\$≡℃&（*＝）」みんな口々に何を言っているのだ、

私は眠い、もう少し寝かせてくれ。よく見れば白衣を着た医者のような人も。

あれ、向こうから妻（さい）が小走りでやってくる。

「どしたんや?」「\$≡℃～!」

面倒さを直感した私は誰にもかまわず、

一つ向こうの自分の部屋へ踵（きびす）を返した。

意識は幾分戻っていたのだが、カラダ全体が茫洋としている。

もう一度自分のベッドで目覚めた時には大方を忘れていた。

：

午前4時、ナースの定時巡回がある。その時私はベッドに居なかった、

靴もサンダルも置いたまま。とりあえずナースがトイレや近場を探して、

その後しばらくしていよいよ警備員、宿直のドクターなどが招集される。

かくして「暁の大捜索」が始まった。探しあぐねた彼らから

早暁午前6時前、起きたばかりの妻（さい）へ電話がかかることに。

履き物確認をして私が裸足であることが判明する、

「どうしたことだ、ひょっとして」と、

彼らが頭に浮かべた最悪の結末は何とも間抜けなことになった。

：

ナースたちは一日3交代、その都度患者の申し送りをする。

従って夕方にはフロアのナースたち全員の知るところに。

妻（さい）によると、近くの病室からお婆ちゃんたちが覗いていたそうだ。

この事件がどれぐらい院内に知れ渡ったのかは、

今回の入院ではっきりするのだが、それは後ほど。

：

オベ後の眼帯と近視裸眼、そして睡眠導入剤が

私を霧（もや）の彼方へ招き入れたといえる・・・なんて表現はどうさ。



ここは同行二人ならぬ同室四人、消灯前から。

3対の弦楽器が合奏しているのではない、一定の律もないので連奏でもない。

バイオリンでもビオラでも、コントラバスでもない。

糸のほつれた弦楽器たちが、

てんでばらばらに不随かつ不協な音を出しているに過ぎない。

神経を逆撫でする雑音なのである。

そして私はこの夜もなかなか寝つかれない。

ZZZ Z...



窓辺のベッド_日赤印象派2013

入院中に二人入れ替わった、写真は次の患者を待つ窓ぎわベッド。

廊下をはさんで南北に病室がレイアウトされている。

4年前と同じ階の部屋なのだが、

時代の流れかすべて6人から4人部屋になっている。

どうせ入院するのなら窓ぎわがいいに決まっている、

日当たりも眺めもいいし窓辺が荷物置き場として使えるから。

しかし今度ばかりは順巡りが悪く廊下側を引き当てた。

しかし同室には恵まれて、いびきに悩まされることなく、

また朝の光に目覚めることもなく、それこそぐっすりと眠れたから、

ま、それもいいさと。

ちなみに横が『脳梗塞』で救急搬送された76歳、

点滴処置で血栓を溶かして事なきを得た。

向かいが『突発性難聴』の80歳、どんな治療をしたのか快癒した様子だ。

私はといえば、

この4年間で6度の入院、いずれもが恙（つつが）なく経緯しているが、

すべてこの病院の同じ階でお世話になっている。

しかし今回は婦長さん以外ナースの皆さんが様変わりしていた。

・・・入院話はエピソード豊富、そのうちおいおいとブログに。



往事の日赤玄関_日赤印象派2013

木下恵介監督『喜びも悲しみも幾年月』（1957）。

日本各地の灯台を転々としながら生活する灯台守夫婦の物語。

1954（昭和29）年、瀬戸内海・男木島灯台に赴任してしばらくして、

息子の入院で駆けつけた時の高松赤十字病院（通称：日赤）の玄関シーンだ。

現在と同じ場所にあり、かすかだがわたしの記憶に残っている佇まい。

というのも、近代的な病院の姿になったのがいつだったのかは知らないが、

年代的に考えて、妻（さい）が長女と長男を出産した当時の木造建物だから、

何度か足を運んだことがあり、このような雰囲気だったことを覚えている。

病室も、妻（さい）の記憶によると手狭な6人部屋で、

現在のようにカーテン仕切りがなく、

女性たちみんなで一日仲良く談笑していたという。

しかしまたま観た映画に、往事の姿が収まっているとはなあ。



燃え尽きた外科医_作り話

緊張のオペ日。俎（まないた）の上のお魚みたいに、

担架に横たわったままで部屋の片隅を見遣ると、

執刀医が隅の丸椅子に、

ボクシング漫画『あしたのジョー』伝説のラストシーン、

ジョーが真っ白に燃え尽き時のポーズそのままの恰好で腰かけていた。

これから始まるオペの手順をお復習（さら）いしているのか、

それともコンセントレーションを高めているのか、それとも午睡。

・・・突然、不吉な予感を脳裏に過（よ）ぎらせた私は、

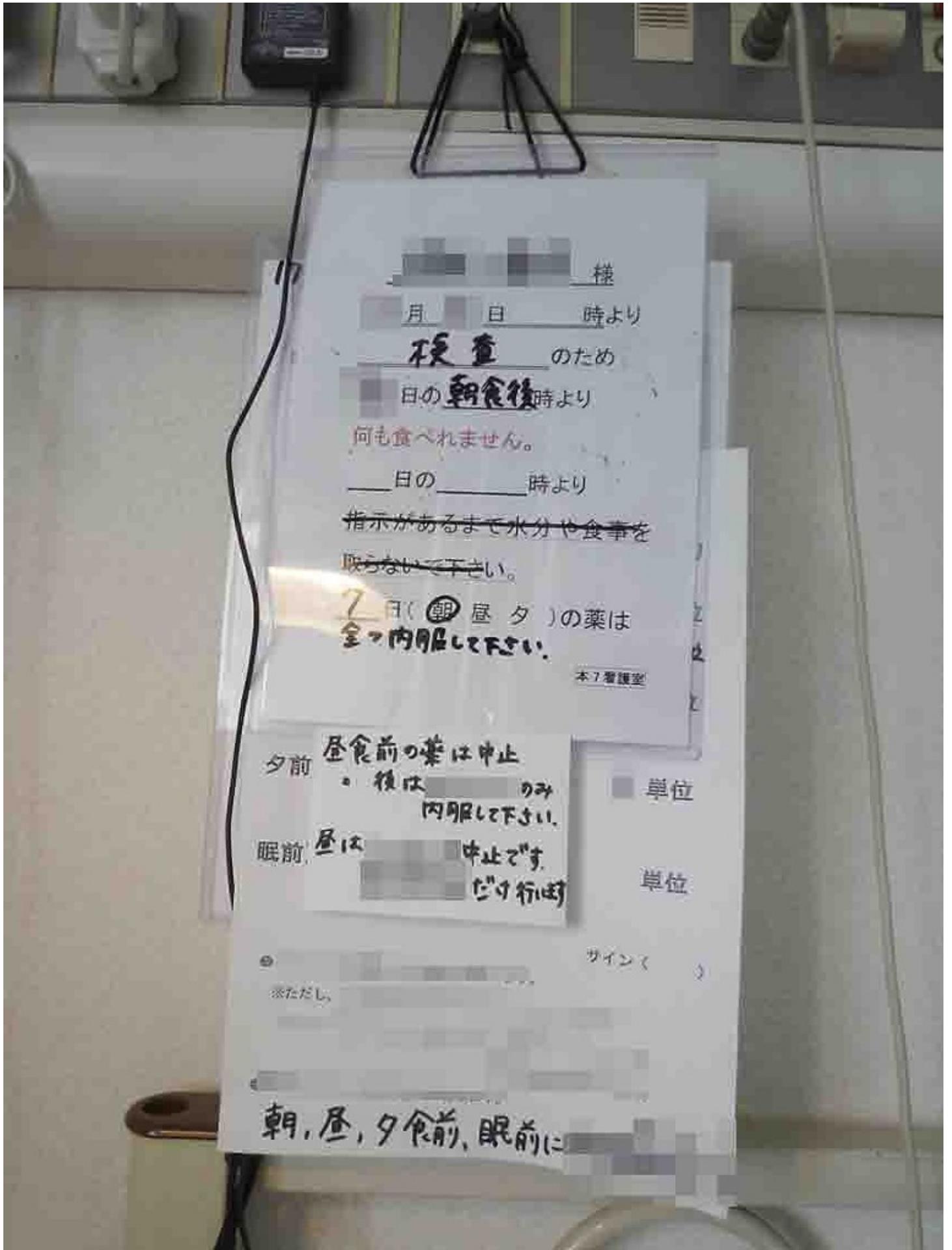
高鳴る胸騒ぎに「今度にする、帰らせてくれ！」と叫ぼうとするのだが、

屈強なオペナースたちの手でしっかりと体を押さえられていた。

麻酔で薄れていく意識のなか、

ジョー最期の試合、相手は誰だっけな?と考えていた。 #twonovel

Photoは単行本から無断転載。不可の場合はご一報を。



[redacted] 様
 [redacted] 月 [redacted] 日 時より
検査 のため
 [redacted] 日の **朝食後** 時より
 何も食べられません。
 [redacted] 日の [redacted] 時より
~~指示があるまで水分や食事を~~
~~取らないで下さい。~~
7 日 (**朝** 昼 夕) の薬は
全ッ内服して下さい。
 本看護室

夕前 昼食前の薬は中止
 ・後は [redacted] のみ
 内服して下さい。
 眠前 昼は [redacted] 中止です。
 [redacted] じり行時

■ 単位
 単位

サインく)
 ※ただし、
 [redacted]
 [redacted]
 [redacted]
 朝、昼、夕食前、眠前に [redacted]

予定目白押し

検査前は予定が目白押し。とてもすべては頭に入らない。

ブログに載せるためのモザイク処理だって大変だ。

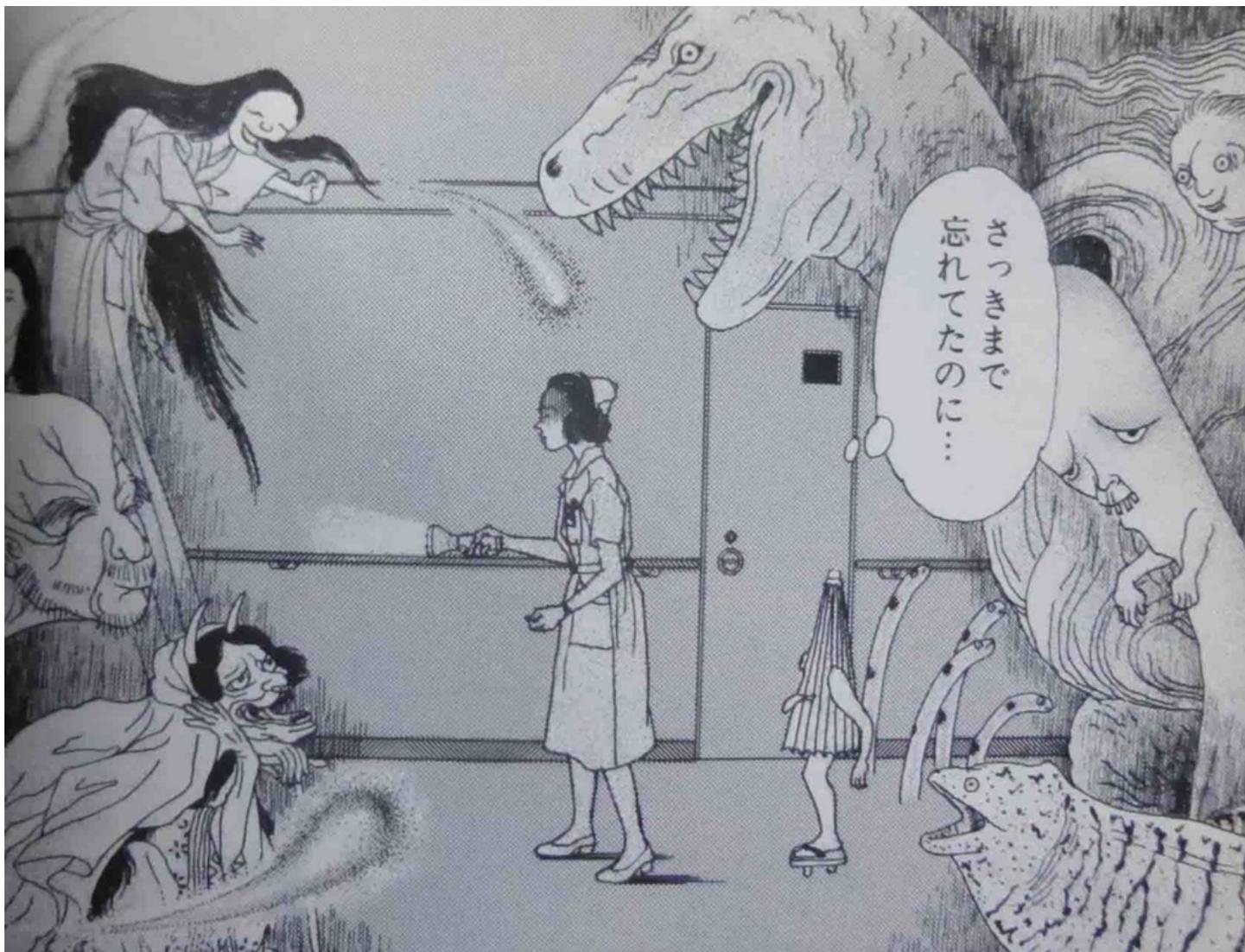
数多くいる患者のひとりだから、ナースもチェックを漏らす危惧がある。

という訳で注意書きをベッドに吊り下げることになる。

「何も食べられません」の一行が赤く際立っている。

しかしかなり以前のことだったので、

何の検査だったか思い出せないでいる。



深夜の病棟

枕元の目覚まし時計を見遣ると午前3時あたり、トイレに立った。

常夜灯にほの明るく照らされた、病棟の長い廊下の向こうから、

夜勤ナースが独り懐中電灯を持って巡回、こちらへ歩いてきている。

手にした灯りが小刻みに揺れているのだが、

まわりに茫洋と漂う何やら得体の知れないモノたちに気付いて目を凝らす。

・・・な、なんだ、あの妖怪百覧のような魑魅魍魎（ちみもうりょう）たちは、

ナースの妄想が産んだホログラムなのか、それとも!?

深夜の大病院は3D仕様のワンダーランド、もしくは、

現世とあの世の淡（あわ）いに棲むおどろおどろしい百鬼夜行。

...おたんこナース | 佐々木倫子



バッジを付けるということ_日赤印象派2013

ナースの身のまわりは実に機能的にまとまっている。

体温計、血圧計、聴診器、タイマー、クリップ、テープなど、

その他はワゴンに載せて担当の患者たちをスピーディに駆け回る。

患者にとっては、ナースの笑顔もクスリの一つだからということもあり、

みんな表情が快活で気持ちいい。

で、眼帯を直して貰うときに間近に迫ってきたのがこのバッジ。

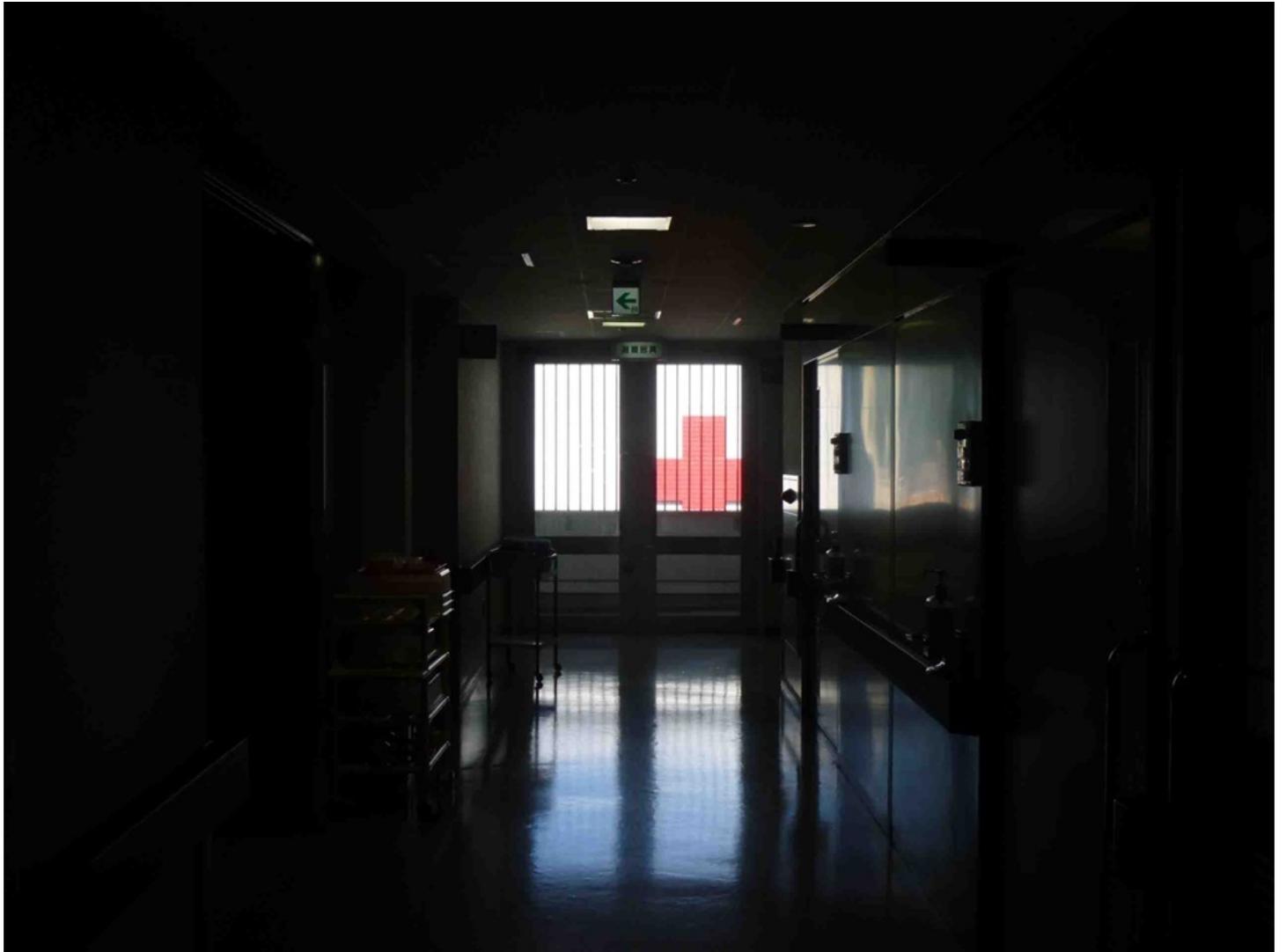
初めて気付いたのだが、歴史を感じさせるベーシックなデザイン。

数に意味があるのか、16個の星に囲まれた赤十字、

役職名などが余白に表示されるのだとか。

ネット検索をしてみたが、このバッジの画像と説明の一切がヒットしなかった。

・ ・ なんだろう。



博愛ありき_日赤印象派2013

本館最上階の薄暗い廊下の突き当たり、窓外に迫る赤い十字。

絶妙の間合いで姿を見せる印象的なシーンである。

以前、NHK歴史番組で日本赤十字誕生のエピソードを描いていた。

西南戦争時（1877年・明治10年）、

敵味方なく救護した『博愛社』が前身だとか。



進化する入院食_日赤印象派2013

はともかく、食事はバラエティ豊かで申し分なし、

デザートには季節の果物が付いて目にもうれしい。

この時季だと、スモモ、西瓜、ブドウ、

初めてお目もじしたパイナップル小分けパックなど、すべて瑞々しい味わい。

塩分一日6g（かけうどん一杯分の塩分！）にも。

もともと日頃から、薄味な食事をしているので不都合を感じない。

しかし、ベッドからナースステーション、デイルーム、浴室、

エレベーターで診察室へ降りるぐらいで、あまり動き回らないこともあり、

それほどお腹も空かない。またデザートを食べる習慣が殆どないので、

半分以上はご飯時遊びに訪れる妻(さい)の分け前に。

そういえば4年前の七夕にもここに居たなあと、

7月7日の夕食に添えられていたメッセージカードの写真を眺めていて、ふと。

写真は左から朝食・昼食・夕食。

ふた付きどんぶり



ふた付きどんぶり_日赤印象派2013

ご飯は、この器の名称で呼ぶとすると、

“ふた付きどんぶり（丼）”に装（よそ）われて、ということになる。

なんでどんぶりの漢字は、丼に句読点が収まっているのか、ということはさておき。

食堂だと親子丼なんかが入った派手なガラ付き食器だが、

ここは病院、そんな粧（よそお）いはなくシンプルで素っ気ない。

1日1600キロカロリーだと、

朝8時・昼正午・夜6時の3食すべて180g、写真の盛り、すべて同じ量である。

かなりオイシイご飯なのだが結構なボリューム、

院内ではさほど動き回らないので、お通じが悪くなり、結果お腹に入らない、

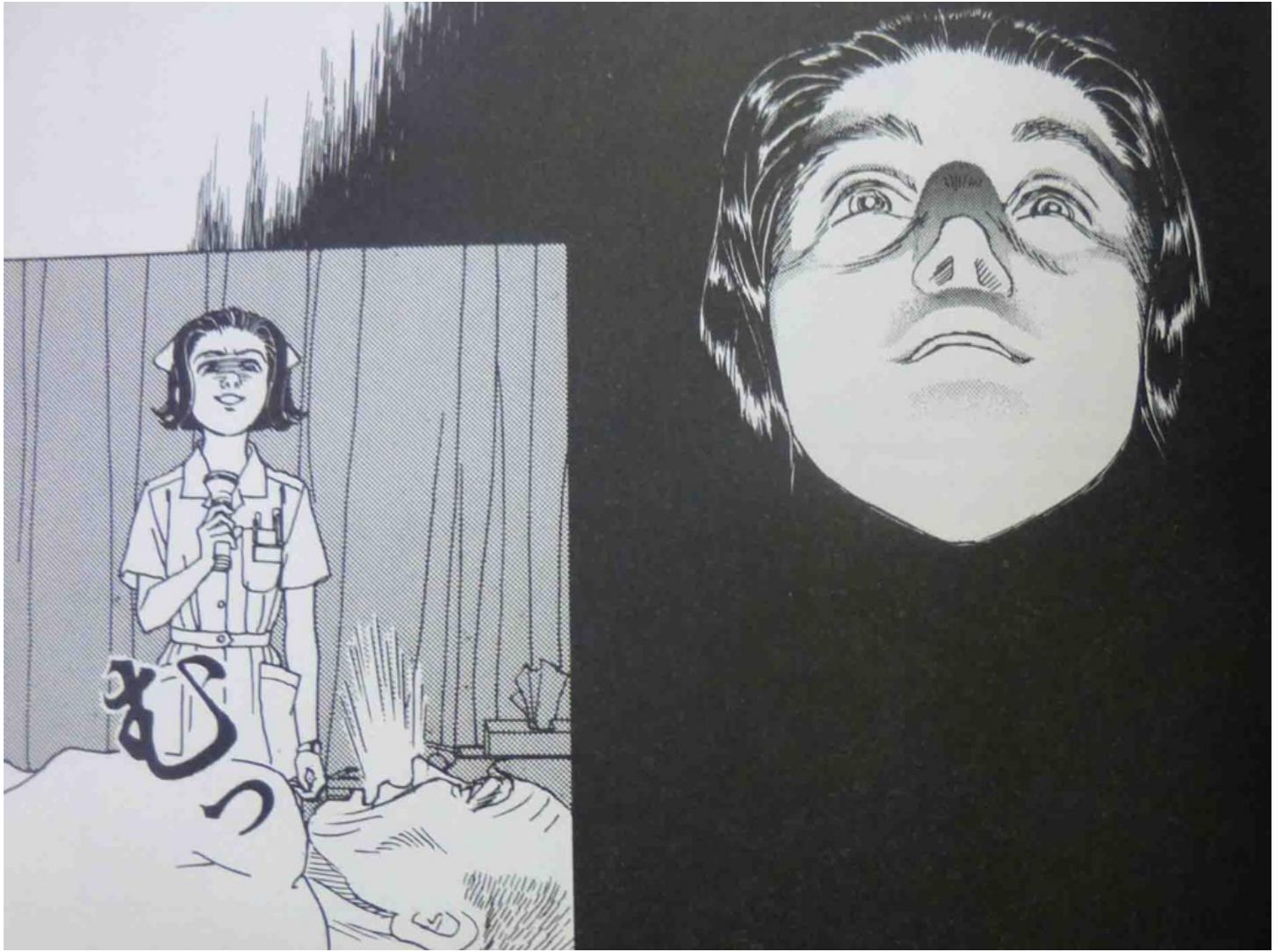
といった3ステップな悪循環に陥り、やがて2日もすると残すことになる。

ちなみに経験値によると1520キロカロリーだと150g、

1300キロカロリーだと130 gだ。

さらに、かなり昔に観たテレビのルポ番組によると、

刑務所の弁当（監弁）は通常食で2250キロカロリーだと云う。



悪戯（いたづら）ナース

深夜の病室。気配で目覚めると、

枕元にライトアップされた顔が浮かびあがっている！

「おわっ、なんなのだ！？」・・・「びっくりしたでしょ？」と若い女性の声。

巡回の担当ナースが、下から懐中電灯で顔を照らしていた、

悪戯だった、なんちゅうことを！

こんなナースと患者がいたらどうしましょ、婦長さん。

患者さんと悪戯を応酬中の“似鳥（にとり）ナース”。

単行本 | おたんこナース_2 (佐々木倫子著)



朝のラジオ体操_2013

早起きな数日、歯を磨いて顔を洗ってしばらくすると、

ナースの回診（体温・酸素濃度・血圧測定）、フロア放送の後食事案内、

カートで朝食が病室へと運ばれてくる。今朝の予定はこれにて終了、

持参してきたコミックとCDウォークマン&朗読CDを持ってデイルームへ。

しばらくして、患者たち（いつもよりも一人少ないか？）と

ナースが寄り集まってきた。

眺めていて初めて気付いた、ああそうだ、糖尿病教室だ。

折から『11/24_世界糖尿病デー』（糖尿病＝diabetes）が始まっていた。

片岡鶴太郎の揮ごうポスターが院内いたるところに。

と、ナースの一人が長いすにCDラジオを置いてみんなが輪になった。

おお！ラジオ体操だよ、

スイッチが押されて眠気を覚ます馴染みの音楽が流され始めた。

ナースが窓辺のワタシを見て

「あなたもどうぞ、どうぞ」「いえいえ」と手で断る仕草をするものの、

座ってもおれず“すっく！”と立ちあがって参加したよ。

いやこの体操、久し振りにやるとかなりハードだ、心臓が早打ちしている。



いびき

3対の弦楽器が合奏しているのではない、

律がないので連奏でもない。

バイオリンでもピオラでも、コントラバスでもない。

調弦の狂った楽器たちが、

てんでばらばらに不随かつ不協な音を出しているに過ぎない。

神経を逆撫でする雑音なのである。そして。

朝ぼらけ

ここは同行二人ならぬ四人、異病同室である。

やがて寝息をたて始めたのは私の方らしいのだが、朝もまた早い。

ワゴンを押してナースたちが歩く。三々五々と手洗い場に集まる人たち。

冬、まだ払暁。下界の家々はまだ薄暗がりのなか。

あと半刻もしなければ蘇生し始めない。やがて。

復活の朝

朝焼けは忌まわしい記憶を焦がしていく、灼熱の色だ。

ほの赤い天空から、病んだ心を包み込む慈愛の光が降りてくる。

か弱き人間たちのために、日ごと自然はかくも壮大なドラマを繰り返す。

朝は希望を蘇らせる。しばらくして。

時間の共有

一帯をあまねく朝の光が照らしているのだが、

日かげもあり日なたもあり。まだ町が陽の底で空を仰いでいるその頃、

路地裏では猫たちが、屋根の下では人間たちが息を潜めているのか。

外気が眩さを醸し出すとやがて密やかな話し声も、

忍ばせた足音も重なり合って大きな喧噪に変わっていく。

ぼくたちはこの町で同じ時間を生きている。

そして押し流されている。



歴代ナースたちが微笑む、無人の資料館！

・・・入り口を間違えた。

救急病棟の夜



救急病棟の夜

入院予約していたのに、初日は地下の救急病棟へ。

棟内はやたら寒く多機能トイレに立つこと度々

。。。 「う、流しとけよ！」と（怒）、

またある時は薄暗がりのなか、点滴台を手に腰掛けた患者と目が合った。

「すみません！（閉めとけよ、おっさん！）」と（怒）。

寝付かれぬ夜だった。 #twonovel

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



オペ説明

フワとレバーがちょうどハラミの辺りで癒着していますので、

ちょっと面倒かと・・・とホルモン用語でオペ説明をする外科医。

聞いていたクランケ

「退院したらまっ先に焼き肉食べに行くぞ！」と、

お口からヨダレをギアラギアラと垂らしながらも、

顔面は蒼白であった。 #twnovel

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



最後の朝餉_2015.3

退院の朝。最後の晚餐（ばんさん）ならぬ

『最後の朝餉（あさげ）』（海老天、味噌汁、ゆかりキャベツ、柔らかめご飯）

・・・塩気制限、油抜き食事の

カロリー制限食（一体何カロリー／1日なのさ!?!）もたまにはいいのだが、

10日も食べさせられると、

お昼はぜ～ったい豚骨ラーメンだ、牛丼だ豚カツだ、

いやそれよか！ということになる。

で、普通の生活に戻ってしばらくすると食べすぎ飲みすぎで不健康体になって、

病院食が懐かしくなるから。

自製の利かない人間にはタガが必要なんだね、と思う訳で。



朗読CD_2015.3

入院の共はシリーズコミック（風雲児たち、おたんこナースなど）と

短編小説の朗読CDとそれを聴くためのウォークマン。

なかでも山本周五郎、藤沢周平、平岩弓枝、向田邦子などをよく聴く。

表現が時代がかった明治の文学作品は、

脳内での漢字変換が難解なので避けるようにしている。

ナレーターには映画や舞台俳優が多く、

職業柄表現が真に迫っていてストーリーがすんなりと耳に染みてくる。

また小説の方も大衆向きで難解な表現が少なく、朗読に馴染む。

なかでも感心したのが、山田洋次が選ぶ藤沢周平傑作選『逃走』*だ。

・・・誰だこの語り手は、渋すぎるぞ！と説明書を見やると、笹野高史だった。

声だけ聴くといいなあ、小男のおぢさんだけど、と感心したものだだった。

*【逃走】朗読：笹野高史（65分）・小間物屋が表看板だが、実は泥棒の銀助。ある日かわいそうな赤ん坊を盗み出して・・・。藤沢作品には珍しいユーモラスな一編。

・
備え付けのテレビはまず、ニュース時にしか点けない。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

救世主！【Stat Vein】（血管スキャナー）

下記のリンク先で詳細を知りませんか？

Best health care Solutions

製品一覧 導入事例 ヘルスケアBLOG 会社概要 問い合わせ

ホーム > 製品 > 静脈可視化装置 - Stat Vein



血管が見える非接触型の静脈可視化装置 - Stat Vein

StatVeinは、赤外線と可視光により静脈を瞬時にスキャンする視認性抜群の静脈可視化装置です。スイッチひとつの簡単静脈視認で、緊急時の静脈穿刺の安全性を大きくバックアップします。

当サイトは、医療関係者（医師・歯科医師等）の方に情報提供することを目的として作成・公開しています。一般の方への情報提供を目的としたものではありませんのでご了承ください。

製品特徴

救世主！【Stat Vein】（血管スキャナー）

スキル不足ナースの二度刺し、挟（えぐ）り刺しはお互い気まずく痛い！

先日、某医療TV番組で紹介されていた、腕に照射するだけで

『血管を浮かびあがらせて見せる』スキャナー、【スタットベニー】*

まだ界わいの病院に出回っていないのか？

ネットを探したが、このスキャナー、どこにも見当たらない・・・なに！？

で後日、キーワード検索でようやく探し当てた、

そもそも『読み』が違ってた、【スタットベニー】*ではなかった、

そもそも製品には日本語訳がなく、番組側が便宜上、片仮名読みしたようだ。

注射恐怖症の人の救世主と成りうるか【Stat Vein】（血管スキャナー）。

・・・で結局、これどう読むんだろう？

下記ホームページは、

このページは一般向けでなく医療機関のために開かれています、と。

:

血管が見える非接触型の静脈可視化装置【Stat Vein】

<https://med.fjtex.co.jp/product/stat-vein/>

:

二度刺しならまだしも！

CT造影検査、

造影剤を体内に注入するので注射を刺して点滴ルートを押える。

採血（吸う）と注入（入れる）とは理屈がまるで違う。

血液は放って置いても体内から出ようとしている、

注入は無理強いて異物（液体）を血管内に注入するという、

体に摂理に反する行為なのだ。痛さが違う、

さらに、注射針がジャストミートして血管内にきちんと挿入されなければ・・・！

CT室付けの看護婦、

年配（おばさん）だったからさぞかし経験豊富なのだろうと

安心して右手を差し出した。・・・おおっ！いきなり失敗しやがった！

もともとわたしの血管は沈んでいる、皮膚の下深く潜行しているようなのだ、

年齢、肥え性、Diabetic（糖尿）、動脈硬化（らしい）ということもあり。

血管をきちんと捕捉できないものだから、ぐいぐいと刺しこんでくる。

「いい、痛いっ（いだいっ）！」

「まあ相済みません、申し訳ない、うわわ痛かったでしょ、

手のグーパーできますか、手先が痺れることありませんか、

針抜きますね、申し訳ないけどまた刺しますね、ご免なさいね、

いやあらま血管が、ここかしら、ここらしいわね、ほほほ」

二度打ちおばさん看護婦、（あきらかに焦っている）やたら饒舌（じょうぜつ）だ。

・・・ぐっぞ！

【注】注射針が血管をきちんと捕捉して、

血管内にリンゲル注射液（生理食塩水など）を流さなければいけない。

それを頭上のリンゲル補給器につなげる。（造影剤はバイパスから）

血管内に注射針が正確に挿入されないとできないのだ。

・・・採血に比すると難易度が高いらしい。

注射ベタ看護婦にはもう何度も酷い目に遭っている、すべておばさんナース、

二度刺し、三度刺しが始まると、矢鱈（やたら）あたふたと口数が多くなる！

ここんところが面白い・・・訳がねえだろ！

こういったおばさんたちが配置されてくるのは、

CT 検査室とか中央処置室のようだ、いやほかにも。

スキル不足看護婦め、すでに6日目になろうとするのに、

二度刺し、一度は袂（えぐ）られた感覚！

・・・その周辺に針刺しの“幻の”疼痛（とうつう）が走っている！

これが一度目・・・二度目は数日して程なく。

これもC T造影検査、

一度目はスムーズに刺せたものの盛んに首を傾げて、といったリアクション。

二度刺し目はお構いなくぐいぐい押し込んでくる。

血管に辿りつかせようとしているのだが、痛い！

「止めて、止め、止めろお！」「他の人に代わって！隣の看護婦さんに」

何度も利用しているので、C T室は隣あせていて扉一つでつながっている、

ということを知っていた。

：

ここ近ごろ、界わいに大病院が新築オープンして看護婦（師）も引く手あまた

・・・となると結局、質の低下もむべなるか。

加えて看護婦さんは、夜中のシフトもある職場環境。

さらに高齢者の入院も加速度的に増えていて、

必然的に体力のある看護師（男性）が増えているようだ。・・・これは実感。

：

【後日談】先日、行きつけの内科で採血の時、

看護婦さんに聞いてみると、すでにメーカーが新製品紹介に来たらしく

【Stat Vein】のことを知っていた。

「片手でスキャナーを持って、片方の手で採血するんですけど、

かなりやりにくいですね、わたしは」と言っていた。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



或る日の日赤

定期検診で訪れる以外も何年かに一度、

大病院でないと出来ないであろう検査に行く。

もちろん、系列の町の担当医院の紹介状を持ってだ。

これを持たずに飛びこみで行くと、随分と待ち合いで待たされる、

初回診察とかいった料金が余分に発生する。

反対に、いかに大病院であろうと遠方過ぎて不便だという場合は、

まず町の担当医院選びの時からその旨を留意しておくべき。

恐らくすべての医院は、どこかの大病院の系列に入っている筈。

でないと大事の場合、言われるままに遠くの大病院に紹介されて検査、

その勢いで入院。挙げ句、その後の毎日の世話や見舞いに行こうとしても、

足（あし）に困ることになるからだ。

で、チャリでやってきました、馴染みの大病院、

増築を重ねて廊下が迷路化しつつあるが慣れたもの。

妻（さい）と診察室へ、すぐMRIを撮るのかと思いきや、

きょうは顔合わせと検査の予約といった段階だった。その帰途。

：

...さっきの先生、苗字が井戸の『井』やったわ、

なんて読むんやろな。

...ほうかいな、見てなかったわで。

フォッサマグナからこっち（以南）のお医者さんが、

転勤でやってくるみたいやからなあ、どこの人やろ。

：

帰ってすぐさまネット調べ。

【井】 い、いい、**いのもと**、さらい、じょう、わかし、いげた、しょう、せい、いつつ・・・
読みが多い、多すぎる。このうちのどれなんでしょ。 [#日赤印象派](#)

[Photo](#)はネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

撮影禁止



インスタの波及でか、

個人情報を勝手に載せてはダメですよ、と撮影禁止の貼り紙。

そういったところは心得つつ、入院ブログを拵えて愉しんだなあ・・・と遠い目。

日赤印象派：後日談（2018.6）

日赤だ！印象派

<http://p.booklog.jp/book/79638>

著者：ひょうたん鯨

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/axros03/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/79638>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/79638>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ